

事業報告書

I. 事業の概要

公益法人として第8期となる令和元年度は、

1. 奨学金事業として

(1) 県内在住14名の高校奨学生及び大学院奨学生2名に対し、奨学金を給付した。

(2) 奨学生同志の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

懇親会に出席した奨学生の中の希望者に、(英語対訳)「二十一世紀に生きる君たちへ」司馬遼太郎著を配付した。

2. 奈良県立橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍を寄贈した。

II. 事業活動

1. 奨学金事業

(1) 本年度は、新採用の6名を含めて計14名の高等学校奨学生に対し月額3万円、2名の大学院奨学生に対し月額10万円の奨学金を給付した。

(2) 懇親会

《第1回》

令和1年8月17日(土)開催 在学奨学生13名 ・ 卒業生8名 / 計21名参加

・ 午前中は、参加者全員での自己紹介
・ 午後からの話し合いのテーマとしては、開催前に奨学生からメールで寄せられた19候補の中から「苦手な人や、性格的に合わない人とかかわり方」を多数決で選択。誰にでも苦手な人や性格的に合わない人がいると思いきや、一人だけ、全くいないとの発言もあったが、殆どの人が自分なりの関わり方を模索した経験があるようで、「相手を違う角度からとらえる。」、「理解するように努める。」、「違って当たり前というとらえ方をする。」、「関係性で、自分との距離を変える。」、「感情的にならないようにする。」等々、他の人たちの関わり方を聴くことは、今の自分のそれを再認識し、考える機会になったように思われ、意義のある時間となった。

《第2回》

令和2年3月28日(土)開催 在学奨学生14名 ・ 卒業生7名 / 計21名参加

・2020年2月27日からスタートしたコロナウィルス感染対策とする自粛がスタートしたことで、学校が休校となり、卒業式等大規模な行事や集まりが取りやめとなったことを受け、開催の冒頭、コロナ感染対策等について、出席者の皆で話し合った。当日は、三密を避け、消毒やマスクについても対応した上で、恒例の参加者全員での自己紹介を開始した。

・午後からの話し合いについては、開催前に奨学生からメールで寄せられた21個の候補の中から「家で効率的に勉強 or 仕事をするにはどうしたらいい？」を多数決で選択。最初に、このテーマの提案者が、コロナ感染対策で自宅にいる時間を勉強に対してどのように効率的に過ごせばよいか、皆はどうしているのかを聴きたかったという思いを発言。「自分を戒める。」に始まり、「時間を決める。」、「やる気のないときはしない。」、「適度な休憩」、「終わりが見えるとやる気がする。」、「筋トレ」、「10秒眠る。」、「スケジュールを書き出す。」、「集中できる科目から、できるところからスタートする。」、「周りに物を置かない。」、「自分を逃げられない状況に置く。」、「自己暗示をかける。」、「ゆるめのスタート」、「タイマーを使う。」、「自分に合った方法を見つける。output、inputの繰り返し」、「立ってやる。」、「友達とやる。」、「目標を決めてから。そこから自分のすることをする。」、「目的意識を持つ。」等々、個々の学習や仕事に対する取り組みを全員が発言したが、後半には、そもそも効率を求めるとはどういうことかという見解も出、あらためて1つのテーマで話し合う意義を実感できる機会となったように思われる。

2. 奈良県橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍を寄贈した。

寄贈図書については、同研究所から購入書籍報告書を受け取っている。